

令和7年6月1日
第531号

鼻高公民館だより

発行：高崎市鼻高公民館 高崎市鼻高町 33-5 電話・FAX 322-9100
まなびネットたかさき HP <http://takasaki.manabi365.net/>



《参加者募集》

鼻高公民館&鼻高こども園 連携事業

おかあさんといっしょ チャイルド広場

入園前の幼児とその親等を対象に、歌や遊び・読み聞かせなどを通して親子でふれあう時間を持たせます。育児の悩みや解決法なども話し合い、子育てを共有します。



- 【期日】6月18日・25日、7月2日・9日、毎週水曜日、全4回
- 【時間】午前10時～正午
- 【場所】鼻高公民館・2階講義室、1階実習室
- 【対象】就園前の子どもの保護者など（お父さん、祖父母も歓迎）、10組程度
- 【費用】無料
- 【服装及び持ち物】動きやすい服装、オムツ替え用の敷物（バスタオル等）、水分補給の飲み物、大人は上履き持参（スリッパ不可）
- 【講師】鼻高こども園保育士・栄養士
- 【申込み】6月2日（月）午前9時から鼻高公民館（Tel322・9100）、又は鼻高こども園（Tel322・5252）で受付。

回	期日	内容
1	6/18	楽しく手遊び・からだ遊び
2	6/25	楽しく作って遊ぼう、おもちゃ作り
3	7/2	栄養士による乳幼児向け調理
4	7/9	楽しく歌っておどろう

【主催】高崎市鼻高公民館
【協力】鼻高こども園

公民館でサークル活動を始めてみませんか

鼻高公民館を利用して活動している団体を紹介します。

曜日	団体名	活動内容	活動日	活動時間
月	すこやかクラブ	健康体操	毎週	9:30～11:00
	千草の会	俳句	第3	9:30～12:00
	手芸サークル	手芸・洋裁・編物	第1・3	13:30～15:30
火	さくら会	オカリナの練習	毎月2回（不定期）	14:30～16:00
	楽遊クラブ	初心者の卓球練習	毎週（第5を除く）	13:30～15:00
水	そば打ち塾	そば打ち実習	第2	9:00～12:00
	書の会	書を学ぶ	第3・4	10:00～12:00
	フラ・ハイビスカス	フラダンスの練習	毎週	13:30～15:30
木	書道サークル	書を学ぶ	第1・3	10:00～12:00
金	鼻高シャロンの会	高齢者の集い	第4	10:00～12:00
	ピンポンクラブ	卓球	毎週	13:00～15:30
日	竹細工愛好会	竹細工	第2(11月～3月)	9:30～15:00

入会を希望する方は直接、活動時間帯に来館し、活動の様子を見学してみてください。来館の際は鼻高公民館へご一報ください。（Tel322・9100）なお、定員を超えている団体は入会できない場合もあります。ご了承ください。

裏面もごらんください。



鼻高の四季

＝写真で綴る鼻高の宝 ③⑥

八幡の庄 遠望 二

八幡の庄を中心として起こった事柄について、歴史学者の久保田順一さんは次のように話されています。鼻高の身近な場所で行った歴史上の史実なので、地域学習として皆さんと一緒に深掘りしてみましょう。

八幡八幡宮

「上野国一社八幡宮」という由緒ある神社がここに鎮座しています。起源は荘園として清和源氏の重要な拠点であった八幡の庄の地に、鎮守の守り神を建立しようということ、源頼信が天徳元（957）年に京都の岩清水八幡宮を勧請して創建したものです。以来、

今年で1068年間地域の安全と平穏を見守っています。康平6（1063）年に創建された鎌倉の鶴ヶ岡八幡宮以上の由緒を誇る鎮守社です。明治以前に於いては、武人の守護神として崇拜されており、徳川家から社領百石と諸役御免の朱印状も下賜されていたように厚遇されていたようです。

源義重公騎馬像の建立

令和6年8月に八幡八幡宮の境内に源氏の武将「源義重」が弓を射ろうとする武者像が、義重の子孫にあたる方たちにより建立されました。仙台城の伊達政宗像や高知城内にある山内一豊の武者像などにも劣らぬ立派なものです。

源義重とは平安時代中期に活躍した武人です。そのルーツを訪ねると清和源氏の嫡流であり武家の棟梁と称賛された八幡太郎義家の三男であった義国を親とします。この義国はやがて鎌



八幡八幡宮境内に建立された源義重公の騎馬像

倉幕府を起こす源頼朝へと繋がる義親と兄弟です。義親の子は為義であり、その子が義朝で、この義朝は保元・平治の乱で平家に敗北します。義朝の子が頼朝で、その弟が義経（牛若丸）です。また義国の子の義康は足利尊氏に繋がる流れであり義重と兄弟です。この義重は仁平3（1153）年に京で内舎人になります。それ以前は、もっぱら東国に在って家領の経営にあたり、語等に現地での武勇伝逸話が数多く残っています。義重は、源氏累代の荘園である八幡の庄の経営には特に注力するとともに広く新田の開墾にも努めました。八幡の庄に続き新田の庄（群馬県新田郡付近）の開墾も行ったのでした。

源平の戦い

保元・平治の乱で源氏の義朝は平家に敗れ、子どもであった頼朝は伊豆に幽閉

され平家の世となるのです。が、やがて治承4（1180）年源頼朝が天皇の子ども以仁王（もちひとおう）を奉じて平家追討に決起します。これを契機に源頼朝や木曾義仲らが挙兵し源平合戦の内乱が全国に波及するのです。義重もこの時に上野国に下り寺尾城（現在の高崎市寺尾町）で挙兵しますが頼朝には従わず自立の意思を示したと「吾妻鏡」には記述があるそうです。

義重は八幡太郎義家の嫡孫であり、門地という点では頼朝の上であり頼朝に属することを心良しとせず、自立の志があったのではないかと云われています。しかし、頼朝が鎌倉に居を構えた後は、一族を挙げて頼朝に従っているそうです。歴史に「もし」はありませんが、もし義重の寺尾に於ける挙兵が成功していれば、八幡の庄や寺尾は日本の中心になっていたかもしれせん。（次号に続く）